

平成24年3月

# 藤瀬幸 学位論文審査要旨

主 査 長谷川 純 一  
副主査 林 一 彦  
同 村 脇 義 和

## 主論文

Preventive effect of caffeine and curcumin on hepatocarcinogenesis in diethylnitrosamine-induced rats

(ジエチルニトロサミン肝発癌ラットモデルでのカフェインとクルクミンによる肝発癌抑制効果)

(著者：藤瀬幸、岡野淳一、永原天和、安部良、今本龍、村脇義和)

平成24年 International Journal of Oncology 掲載予定

## 審 査 結 果 の 要 旨

肝細胞癌の早期診断が可能となり、各種の根治的治療が行われているが、多中心性発育による再発率が高いためその予後は満足すべきものとはいえない。本研究では、ジエチルニトロサミンによる肝発癌ラットモデルを用いて、カフェインとクルクミンによる肝発癌抑制効果を検討した。その結果、カフェインとクルクミンがいずれも肝発癌を抑制することが示唆されたが、PCNA陽性細胞およびGST-P陽性細胞の数から、クルクミンに比べてカフェインがより強く肝発癌を抑制することが示された。本研究の内容は、カフェインの肝発癌抑制効果の可能性を示したものであり、肝発癌の化学的予防の面で明らかに学術水準を高めたものと認める。